

# 桜田門から麻布方面へ

2010 年 6 月

桜田門 ⇒ 愛宕山 ⇒ スウェーデン大使館 ⇒ ホテル大倉  
⇒ 我善坊坂と我善坊谷 ⇒ 狸穴坂・鼠坂 ⇒ 麻布十番  
⇒ 三田小山町再開発予定地  
⇒ 三井クラブ・オーストラリア大使館

「現代」「明治末」「江戸末期」の地図を重ね、歴史をたどりながらの散歩。  
3 枚ずつ 2 組（計 6 枚）の地図をめくり確認しながら歩きましょう。

## Q まずは質問

- 0) 桜田門外の変で、井伊直弼は水戸藩浪士に襲撃されたが、井伊直弼はなぜ桜田門から登城したのだろうか。
- 1) 霞ヶ関官庁街は、もとはどこの大名家の屋敷だったのだろうか。
- 2) 現在の日比谷公園の一角には江戸時代に「桜田御用屋敷」があったが、これはいったいどんな屋敷なのか。
- 3) 現在の六本木一丁目や麻布台一丁目あたりには、江戸時代に「与力同心大縄地」が点在している（紫色）。「大縄地」とは？  
この辺りの大縄地の与力同心の職業は？
- 4) 江戸時代の都市・江戸の人口は、武士が半分を占めていたといわれている。  
なぜこんなに武士が多かったのだろうか。
- 5) この武士が住む空間、それに寺社が江戸の土地が圧倒的部分を占めていた。  
では町人はどんなところに住んでいたのだろうか。

## ☆ 江戸末期の地図の色区分

白 色 : 大名屋敷、旗本の上級武士の屋敷  
紫 色 : 中・下級武士の組屋敷、大縄地  
グレイ : 町人町  
ピンク : 寺社

## 大名屋敷

### 上屋敷

藩主とその家族の居所。道を隔てた反対側に「向屋敷」をもつこともあった（地図 A2 の安芸広島藩）。登城の便から江戸城の周辺に配置され藩役所の機能も持った。

### 下屋敷

隠居所または世継ぎの居所。また上屋敷の修理や被災の際の避難所。側衆・大番頭・留守居役のような幹部にも一代を限り 2 ケ所に与えられた。多くは郊外にあり、別荘や庭園として使われた。水戸徳川藩の場合、上屋敷は水道橋後楽園、下屋敷は向ヶ丘（現 東大農学部）

### 中屋敷

大藩が持ち、参勤交代の家臣の宿舍などに当てられた。官庁街である霞ヶ関は、江戸時代には、安芸広島藩（浅野）42 万石、黒田の筑前福岡藩（黒田）52 万石、米沢藩（上杉）18 万石、その他小藩の上屋敷であった。現在の日比谷公園は、長州藩 37 万石、肥前 鍋島藩 36 万石とその他の小藩の屋敷であった。

## 御用屋敷

御庭番の屋敷であり、桜田門外などに複数の御用屋敷が確認できる。  
御庭番とは八代将軍徳川吉宗が創設した公儀隠密の事。吉宗は御三家の紀伊家から入り、生まれながらの将軍ではなかったため、それまでの隠密を信用出来ず、和歌山から連れてきた藪田助八を棟梁分として任命し、17家を御庭番とした。通常は桜田御用屋敷・虎ノ門外御用屋敷・雉子橋門内御用屋敷・清水門外御用屋敷に分かれて住んでいた。(地図A2)

## 大縄地

中・下級武士の宅地は職務上、同じ組に属する者がまとまって屋敷地を与えられたが、これは土地を一括することから大縄地・大縄屋敷といわれた。官舎のようなものである。低地や谷合のあまり条件の良くない場所があてがわれていた。収入が少なく副収入を得るために、傘の修理などの手内職をするものがあり、また敷地で植木や花を作ったり、敷地の一部を町人や医者などの知識層に貸すことで収入を得た。貸し出された屋敷地が岡場所になったところもあるという。(地図B2)。

## 武家屋敷

旗本： 旗本は徳川氏の三河以来の家臣から成る。武家以外にも儒者、医師、碁所、歌学方など技芸をもって召し出された者もあった。旗本の人数は、享保7年(1722)の調べでは5205人、そのうち100石～500石以下の者が約60%を占めていた。武家諸法度によって統制され、老中・若年寄の支配のもとに番方、役方の諸役職につくが、役職には限りがあったため非役の者も多くいた。

## 御家人

与力・同心などを務めた者の子孫。享保7年(1722)に御家人の人数は17390人で、禄高最高は240石で総じて貧乏御家人が多かった。

## 御家人の内職

麻布の組屋敷で草花  
代々木・千駄ヶ谷の組屋敷でこおろぎ・鈴虫などの季節の虫類  
巣鴨・大久保の組屋敷では植木  
下谷の金魚  
青山百人町の傘張り  
根来百人町の提灯張り  
巣鴨鷹匠町・御駕籠町の羽根作り  
趣味と実益を兼ねた内職をして町人に売り、収入の助けとした。

地図A3でみつけることができる明治時代の邸宅  
歩く道筋には、明治・大正期の華族、実業家などの屋敷が多くあった。  
地図で確認してみよう。

- 小村寿太郎(日露戦争後のポーツマス条約時の外務大臣)
- 岩倉具視(子)
- 大倉喜八郎(武器商人から財閥を立ち上げた実業家。  
現在のホテル・オオクラの場所)
- 板垣退助
- 後藤新平
- 松形正義
- 北里柴三郎

その他、島津、蜂須賀、鍋島、真田、織田など旧大名家

## 我善坊坂と我善坊谷

六本木一丁目から麻布台一丁目に下る坂を「我善坊坂」といい、坂を下りた谷あい「我善坊谷」といった（地図 B1 の黄色に塗られたところ）。

明治末の地図 B3 には我善坊町と書かれている。

江戸末期の地図では、ここは「御先手与力同心大縄地」となっていて、組屋敷があったところである（地図 B2）。このあたりの大縄地には、火付盗賊改めの与力同心の組み屋敷があり、池波正太郎の「鬼平犯科帳」にも登場する。御先手与力同心大縄地があった我善坊谷（麻布台一丁目）の一角は、戦後は中流中産層の住宅地区であったが、住宅の多くが森ビルによって地上げされ、長期に放置されたままになっている。

まさにゴーストタウンである。



麻布台のゴーストタウン化した町



各家には森ビル管理地の看板

## 狸穴（まみあな）坂

ロシア大使館横の坂が狸穴坂で、麻布十番方面に下りていく。

狸をなぜ「まみ」と読むのかについては定説はなさそう。

谷間に「魔魅がでる」とのうわさがあつたからとの説があるということだが、定説はない。いずれにしろ狸がでるようなところだったのだろう。

平岩弓枝の「御宿かわせみ」では、主人公東吾の通う道場がこの狸穴にあった。

江戸城の北も南も坂が多く、それぞれに名前がついている。

港区では、坂のそば口に柱を立て、坂の名前をその由来とともに記している。

三組坂、鼠坂、植木坂、榎坂、雁木坂、落合坂など。

## 三田小山町

マンション街が続く一角、三田小山町（現在の三田三丁目の西部）には、「ここが三田？」と思わせる、「三丁目の夕日」のような懐かしい匂いのする街並みが残っている。

しかし、この一角にも開発の波は押し寄せている（地図 B1 の黄色の部分）。

### 三田小山町地区市街地再開発組合の設立認可について

平成 17 年 11 月 8 日 都市整備局

東京都は、都市再開発法第 11 条第 1 項の規定に基づき、三田小山町地区市街地再開発組合の設立を下記のとおり認可しますのでお知らせします。

- 1 認可組合（施行者）の名称及び所在地  
三田小山町地区市街地再開発組合 港区麻布十番四丁目 1 番 7 号
- 2 事業の名称 三田小山町地区第一種市街地再開発事業
- 3 施行区域 東京都 港区三田一丁目各地内
- 4 認可の効果 組合設立認可により法人格を得て市街地再開発事業の施行者となり事業に着手する。

今後の予定 権利変換計画認可 平成 18 年 3 月予定

工事着工 平成 18 年 10 月予定

建築竣工 平成 21 年 3 月末予定

- 5 事業効果 本地区は震災・戦災も免れ、古くから良好なコミュニティを培ってきた地区である。都営地下鉄大江戸線、東京メトロ南北線の駅開業に伴い大幅に改善された立地条件を活かし、コミュニティの継承と地域根ざした事務所・店舗・工場との共存を目指す。土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を進め、安全性と利便性の高い、快適で魅力ある複合住宅市街地を形成することを目的として事業を行うものである。

6 認可日 平成 17 年 11 月 8 日

7 地区の概要 (1) 地区面積 約 1.1 ヘクタール

(2) 計画概要

規模 延床面積 約 65,200 平方メートル

地上 36 階 地下 1 階 高さ約 128.5 メートル

用途 住宅（約 510 戸）・事務所・店舗・工場・駐車場等

総事業費 約 245 億円



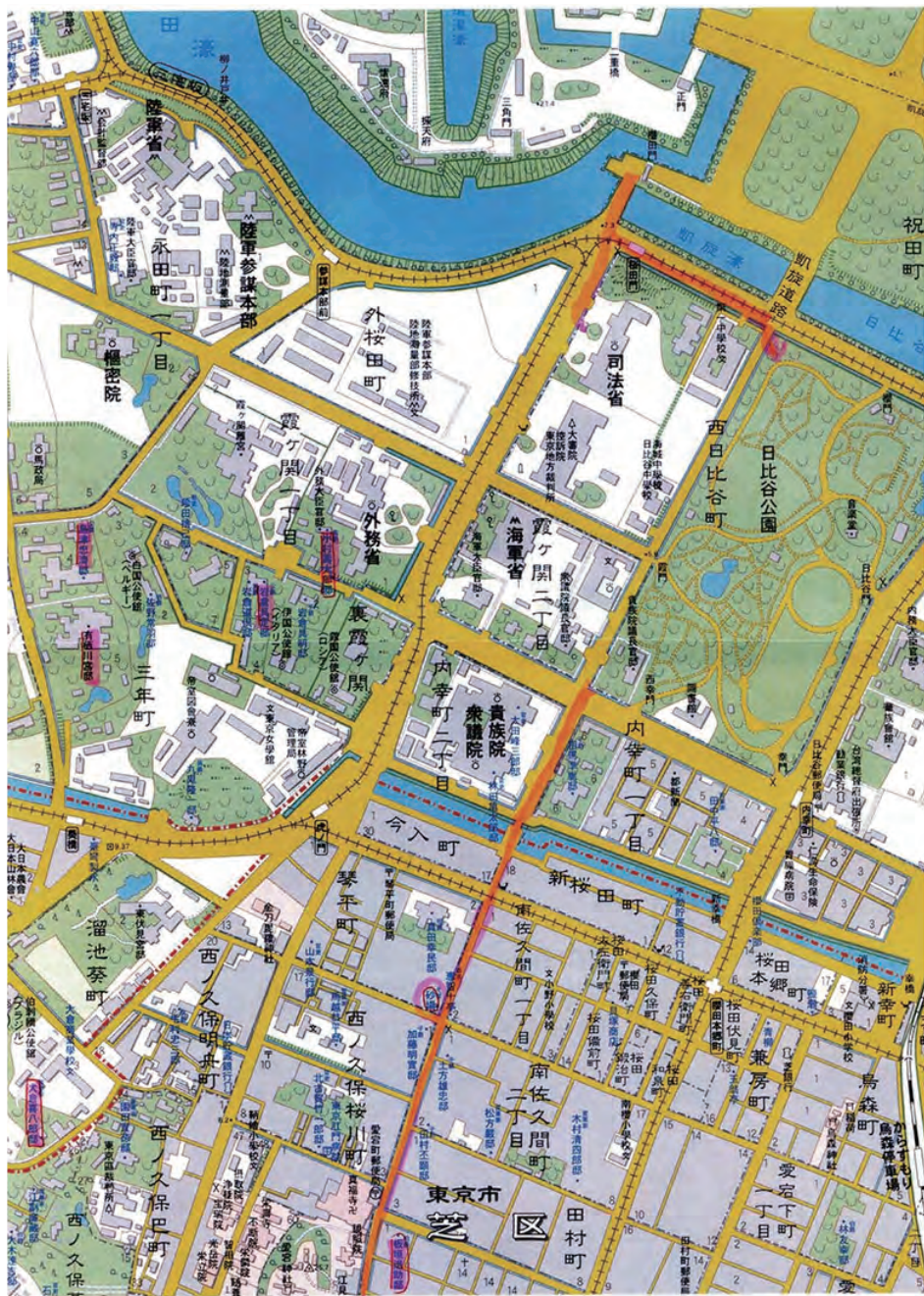


A 1



A2



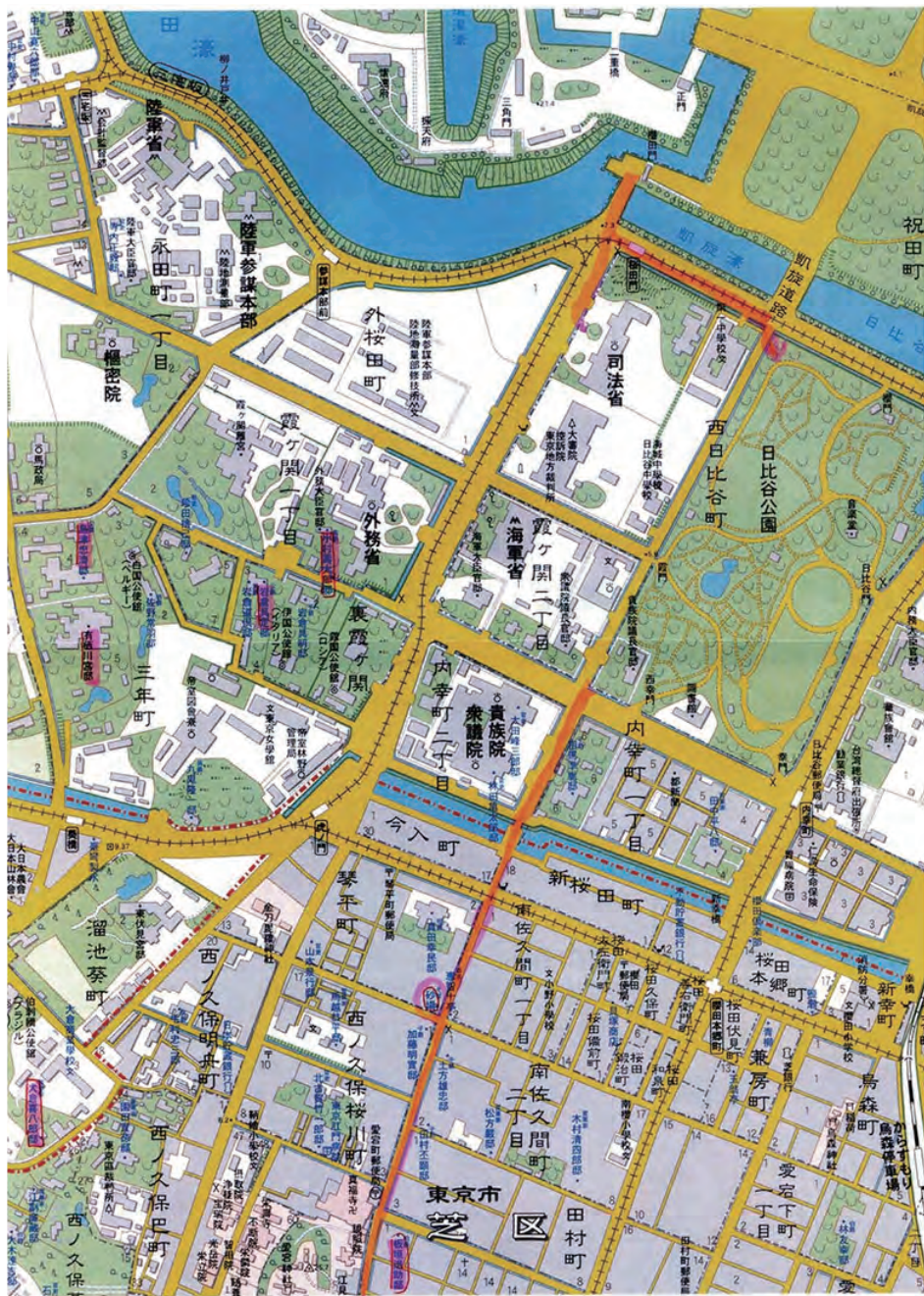


A3



B1





A3



B1



